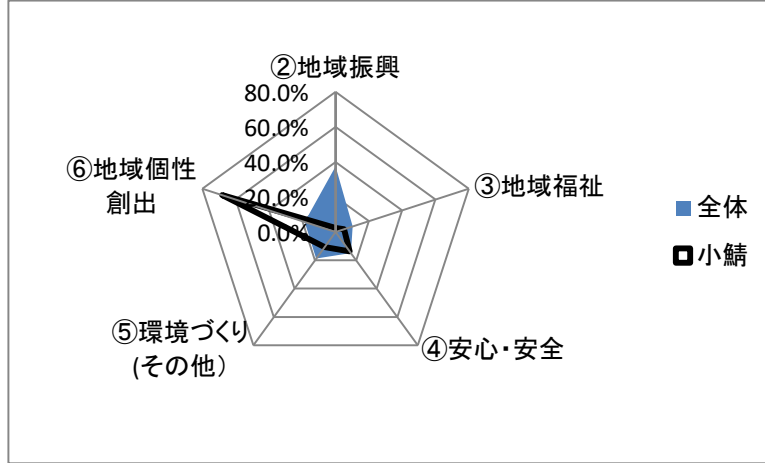


小鯖地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和2年度)

■地域の情報

地域人口	4,326人	自治会数	23
世帯数	1,703世帯	自治会加入率	85.9%

※数値は、令和3年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,508,000 円
交付金決算額	7,296,092 円
その他収入	312,930 円
交付金決算額／配分額	97.2%

各分野の決算

①協議会運営	5,351,964 円
②地域振興	52,498 円
③地域福祉	114,901 円
④安心・安全	309,236 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	242,695 円
⑥地域個性創出	1,537,728 円
決算総額	7,609,022 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地区住民および各種団体が連携・協力して、豊かで住みよい安全な 地域づくりを進める。

■総括

令和2年度は、協議会委員の負担軽減を目指し、協議会委員で構成する専門部会とは異なる団体が行う事業について、その事務処理を協議会事務局で対応する体制に整理したところ、協議会委員の役割分担が明確化され、年間を通じてスムーズに活動することが出来、3つの重点的視点の取組みを負担なく行うことが出来ました。

また、次期地域づくり計画策定に向けた取組みの一環として、「全住民アンケート」を実施しました。外部の多くの協力を得て行ったところ、様々な視点からの地域課題を発見することが出来ました。今後、アンケートの結果を精査し、5、10年後の小鯖地域づくりに向けた第4次地域づくり計画の策定を進めていきます。

① 協議会運営	事務局費(事務局人件費、事務費、通信費、費用弁償等)
② 地域振興	ボランティア団体立ち上げに向けて、地域活性化応援
③ 地域福祉	生きがいづくり支援、高齢者化社会に向けた施策、ふれあい配食サービス、小鯖敬老会、子育てサロン支援
④ 安心・安全	生活安全対策、交通安全対策、防災訓練・研修推進、災害発生防止対策、避難時必要資材充足、小鯖っ子見守り隊の充実、青色防犯パトロール、防犯灯設置推進、掲示板・反射鏡設置補助
⑤ 環境づくり	地域環境整備事業、花いっぱい運動推進、一斉清掃活動推進
⑥ 地域個性創出	ニュースポーツ振興、猫TNR活動補助、小鯖夏まつり支援、小鯖ふるさとまつり支援、若者のびのび事業、さばろっち活動、竹馬世界選手権大会、社会教育協賛、小鯖これからプロジェクト

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	小鯖これからプロジェクト	決算額	835,230円
	目的	組織団体を含め地域づくりの取組み・くみの課題を探り見直しを行い、新たな地域づくりを目指す取組み。		
	実施内容	第4次地域づくり計画策定に向け、「全住民アンケート調査」実施。各地区自治会長の協力も得て、役員や自治会長も含め説明会を開催し、データ集計や専門的な分析には外部も含めた協力体制で対応し、それぞれの段階で関係者と調整して推進した。		
	実施時期	6～7月説明会 8月アンケート内容検討 9月アンケート用紙作製 9月末 各地区自治会長から全住民へ配布 10月末回収 11～12月 データ集計 1～2月専門家によるデータ分析、意見交換会 3月初め報告書作製 3月中旬 全戸配布		
	参加人数	プロジェクトの構成員(協議会事務局役員、地域交流センター地域担当、協働推進課、やまぐち県民活動支援センター、山口市市民活動支援センター、山口市北東地域包括支援センター)、データ集計時は外部の専門協力者(やまぐち県民活動支援センター、NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター) アンケート配布数3,194人		
	成果	多くの協力者、地元のアンケート調査への理解により、2,791件(回収率87.4%)の住民の声を聞くことが出来た。性別を問わず中学生以上の幅広い世代から声、意見を聞き、日常生活で不安・困っていることややってみたい・協力できる活動他等を集計したデータを取ることが出来た。		
	評価	このアンケートにより、小鯖地域の様々な視点からの現状把握が出来、各年齢層に沿った課題も見えてきた。		
	今後に向けて	次年度以降、アンケート結果の世代別報告会、テーマ別ワークショップ等を開催し、多くの地域住民と意見を共有し、次期計画策定へ向け取り組んでいく。		
②	事業名	自主防災支援事業	決算額	137,062円
	目的	年々大災害が発生する現況を見据え、地域の防災意識の向上に努める取組み。		
	実施内容	山口市防災危機管理課と共催で、「小鯖地域防災実動訓練」を小鯖小学校体育館にて実施。訓練内容は、コロナ対応で『避難情報伝達訓練(レベル3)』と、『避難所資材の設営』を行った。また、見学参加の募集も行った。		
	実施時期	事前説明会 令和2年8月24～26日 防災実動訓練(避難情報伝達訓練、避難所施設見学)令和3年3月14日		
	参加人数	避難情報伝達訓練 17地区 避難所施設見学 約20人		
	成果	地区の防災訓練内容は第1避難所に避難することにポイントを置き実施。最終的には、コロナ禍により「避難情報伝達訓練」のみになったが、「普段からの心がけ」という防災意識が高揚した。		
	評価	各地区の現在の情報連絡手段を見直すいい機会となった。		
	今後に向けて	「災害は忘れた頃にやって来る」事からしても、研修訓練等は継続して単位地区の防災会と共に推進していく。		
③	事業名	高齢化社会に向けた施策	決算額	5,998円
	目的	高齢者を抱える家族及び市域をサポート・支援出来る環境づくり		
	実施内容	高齢者在宅家族サポート研修・講習を実施		
	実施時期	認知症サポーター講習会(10月25日) 福祉体験【車椅子、白内障】(3月3日)		
	参加人数	福祉員20人、民生児童委員12人、部会委員11人		
	成果	認知症サポーターの取組み、期待される内容について理解が深まった。		
	評価	家庭や地域での介護支援を配慮した在宅家族サポート講習会が必要と思われる。		
	今後に向けて	令和3年度以降は、包括支援センターが推進する「地域包括ケアシステム」とタイアップした形で検討を進める。		